

島牧村立島牧小学校

1 活動の概要

本校では、第3学年の総合的な学習の時間において、地元の漁業者を外部講師に、首都圏の市場関係者と交流を図りながら、地元の魚介類の流通等について調べる活動を行い、地域の自然や産業の素晴らしさを実感できる学習活動を展開しました。

2 活動の様子

学習では、島牧村の自然について理解を図ること、日常生活との関連を図り、実践的な態度を育成することを主なねらいとして、次の活動を展開しました。



【地元の漁協を訪問】

(1) 課題意識を高める地域人材の活用

導入において、漁協を訪れ、島牧の海で捕れる魚介類について、漁業関係者へのインタビューや見学等を行いました。この活動を通して、児童は「地元の魚介類がどこで消費されるのか」等の疑問をもち、「甘エビの行方」について追究することを明確にしました。

(2) 地元の漁業者の協力を得て、児童一人一人が書いた手紙を、商品である甘エビの箱に添えて首都圏へ出荷しました。

(3) 東京の築地市場の仲買業者や東京や横浜の寿司店から手紙の返事が届き、児童はお礼の手紙を送りました（吹き出しは手紙からの抜粋）。

私はいつも島牧産の「甘エビ」を使っています。理由は、他の場所のものとは違い、赤色が濃く、味が甘くてしっかりしているからです。いつまでも島牧の甘エビがとれるように、島牧の海を守ってください。

<横浜の寿司店からの手紙>

お手紙ありがとうございます。手紙をいただいて、エビをとっているおじいちゃんに手紙が来たことを伝えました。おじいちゃんは「島牧のエビは世界一だ」と言っていました。僕はすごいなと思いました。

(4) 児童は、漁協訪問や手紙などから得た情報を壁新聞にまとめ、校内で発表しました。児童からは「とても遠くまで運ばれることが分かって驚いた。」「島牧村の甘エビのよさを分かってくれてうれしかった。」などの声が聞かれました。



【仲買業者の方からの手紙を読む児童】

3 Naviポイント

- 課題を見出すための体験活動や、課題を追究するための体験活動など、地域の産業等に視点を当てた活動のねらいを明確にし、計画的に指導することが大切です。
- 地元の特産品に対する他の地域の人々の評価を活用するなど、地域のよさを客観的に捉えることができるよう工夫することが大切です。

4 URL

島牧村立島牧小学校：<http://www7.ocn.ne.jp/~simashou/6401.html>